

平成 27 年度 上越市教育研究会 図画工作・美術部活動報告

部長 池田 隆（美守小学校）

1 研究テーマ

「かかわる かわる つなぐ 造形教育」

2 研究の概要

第 30 回新潟県美術教育研究大会に参加し「かかわる かわる つなぐ 造形教育」の考え方に基づいた公開授業や提案発表について話し合う等の研修を行った。(140 人参加)

3 研究の実際

第 30 回新潟県美術教育研究大会[11 月 12 日（木）・会場 妙高市立新井小・中学校他]

(1) 研究テーマの説明

「かかわる」とは、様々な環境と柔軟に関係をもちながら創造活動を深めていく姿、仲間と協働しながら創造活動を楽しみ、自分のよさを十分発揮している姿などをイメージしている。「かわる」とは、形や色彩などによる表現の技能を身に付け、美しく表現する能力が高まる姿、自然の造形や美術作品についての理解や見方が広がる姿など、図画工作・美術ではぐくみたい資質・能力が身に付いていく姿をイメージしている。「つなぐ」とは、表現や鑑賞の造形活動を通して「人」「もの」「こと」と更に深く、広くつながっていくこと、そして、創造活動を深め、自分の成長を自覚することによって、心豊かな生活を創造する意欲と態度を高めていくことへとつながっていくことなどをイメージしている。

(2) 公開授業と分科会での意見

① 妙高市立新井小学校第 5 学年「彫って刷って 表そう」(ICT の活用)

作品の一部を拡大することや撮影した映像を振り返りに使うなど、ICT を効果的に活用していたという意見が多かった。一方、45 分の時間設定は短く、子どもがもっと様々な彫刻刀で様々な彫りを試す時間があるとよいという指摘もあった。



② 妙高市立新井中学校第 2 学年「布と織の世界から」(地域・美術館との連携)

地域素材を活用して本物に学んだことや地域に学校をアピールできたことはいいという意見が多かった。また、美術館がなければ、学校が美術館になればいいという意見もあった。一方、総合、技術、家庭科と違う美術的要素を深めたいという指摘もあった。



③ 妙高市立新井小学校第 2 学年「にじいろパラダイス」(探究と活用)

子どもがつくり、つくりかえ続けている姿や友達とかかわる姿が見られた。そうできる余地を残している授業だったという意見があった。一方、形にこだわりたい子と色にこだわりたい子がいたので、どちらかにしぼってはどうかという意見もあった。



(3) 講演 講師 (株) 東北新社取締役上席専務執行役員 CMディレクター 武蔵野美術大学客員教授 中島信也 様

僕の表現に魅力があって、CMを見た人々が「きれい！楽しい！うれしい！」というふうに何らかのびっくりマークを感じ、心が+（プラス）に動くと、広告主とCMを見た人々との間にいい関係が生まれる。僕は、相手がどう思うか想像できる心をもつことが大切だと思っている。子どもに未来はある。それを明るくできる。美術の魅力を絶やさないでほしい。(要旨)

4 今後の課題

○各自が今回明らかになった効果を自分の実践に活かしていく。